

(電子メール施行)
農技 1115 号
令和3年4月30日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予報第1号を發表します。

令和3年度病虫害発生予報 第1号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	苗立枯病	平年並	平年並
	ばか苗病	平年並 (一部やや多)	平年並
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
ムギ	赤さび病	やや多	平年並 (一部やや多)
	赤かび病	平年並	—
	うどんこ病	多	多
	アブラムシ類	やや多	平年並
タマネギ	細菌性病害	やや多	平年並
	べと病	やや多	平年並
	灰色腐敗病	平年並	やや少
	ネギアザミウマ	やや多	やや多
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	平年並	平年並
	アブラムシ類	やや少	少
	ヨトウガ	平年並	平年並
	コナガ	平年並	平年並
	モンシロチョウ	平年並	平年並
野菜共通	ヨトウムシ類	平年並	平年並 (やや早い)

* 気象の概況

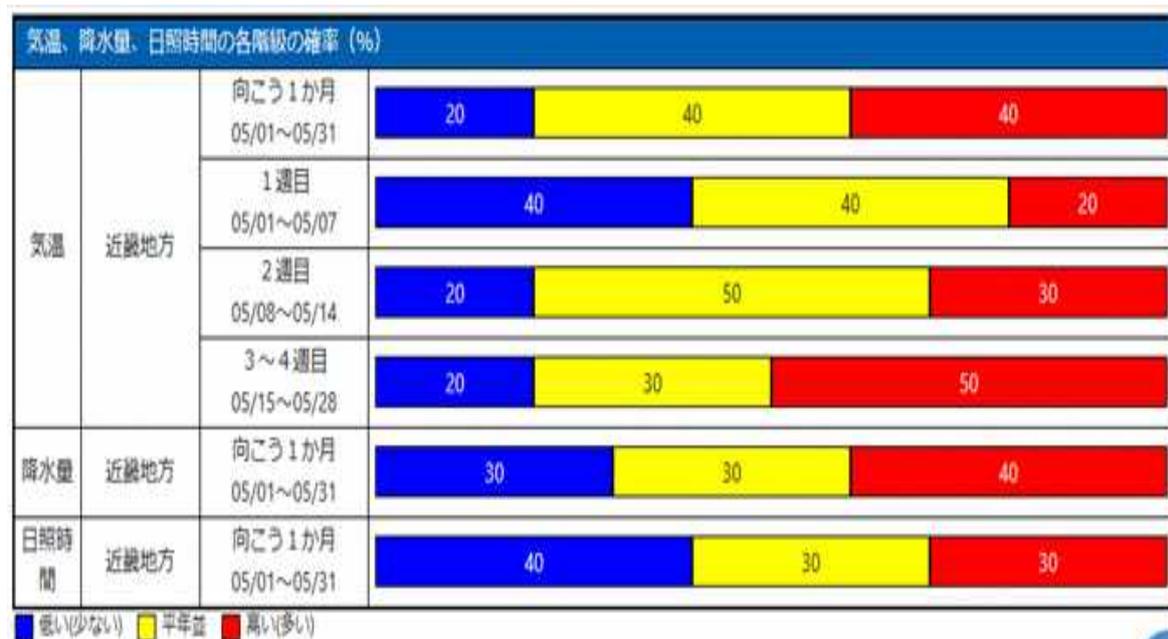
近畿地方 1か月予報
(5月1日から5月31日までの天候見通し)

令和3年4月29日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(05/01~05/31)		
2021年04月29日 14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 05/01~05/31	天候	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
1週目 05/01~05/07	気温	1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。
2週目 05/08~05/14	気温	2週目は、平年並の確率50%です。
3~4週目 05/15~05/28	気温	3~4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>



* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【苗立枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 育苗期は苗がムレやすく、発病が助長される可能性があるため、適切に換気を行う必要がある。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、発病は平年並で推移すると予想される。

2 【ばか苗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並(一部やや多)
(2) 予報の根拠

ア 既に播種を実施して、種子消毒時に低温であった場合は発生につながる懸念がある。また、菌株によって効果の低下が認められた薬剤があるため(令和2年度病害虫発生予察技術情報第1号、令和2年8月27日付、HPに掲載)、該当する薬剤を用いた場合は発生がみられるおそれがある。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、発病は平年並で推移すると考えられるが、上記の状況になった場合は、平年よりやや多く発病することも予想される。

- (3) 防除上の留意点

ア 育苗期には、育苗箱における発病苗を移植前に除去すること。

イ これから播種を行う場合は、健全(購入)種子を使用し、種子消毒を徹底すること。種子消毒にあたっては、令和2年度病害虫発生予察防除情報第4号(令和3年2月26日付)を参考にすること(HPに掲載)。特に消毒時及び浸種時の水温を適正に保つよう留意すること。

3 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内ムギ圃場(加西市)におけるすくい取り調査では、2.0頭/10回振り(平年値3.8頭)と平年並であった。その他、播磨地域では0.4頭/10回振り(前年同期0.2頭)であった。いずれも発生が認められたのは越冬世代成虫であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、降水量はほぼ平年並と予想されており、越冬世代虫のムギ圃場への飛び込みが進むとともに、次世代虫(第1世代虫)の発生がみられると考えられる。

ムギ

1 【赤さび病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の場内圃場(加西市)の調査では発生茎率36.0%、発病度9.5とやや多い発生であった。また、同時期の播磨地域の調査では、発生圃場率は10.0%(3圃場/30圃場)、発病茎率は0.8%であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、周期的な降雨が予想され、季節の進行による気温の上昇に伴って、本病はやや多い発生で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤防除は、初期発生確認後すみやかに行う。液剤、水和剤の散布には必ず展着剤を加用する。

イ 薬剤によっては赤かび病、うどんこ病との同時防除が可能であるが、茎葉部位に薬液が十分かかるよう、散布量を使用基準内で多めに設定し、株元まで丁寧に散布する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。
病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

2 【赤かび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 場内圃場(加西市)のシロガネコムギの開花盛期は4月18日であった。4月下旬の場内圃場の調査と4月中旬の播磨地域の調査では発生は確認されなかった。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量はほぼ平年並で、周期的な降雨が予想されていることから、今後の気温の上昇に伴い、本病は平年並の発生になると予想される。

3 【うどんこ病】

(1) 予報の内容

発生量：多

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の場内圃場(加西市)の調査では発病茎率52.0%、発病度14.0であった。同時期の播磨地域の調査では、発生圃場率は40.0%(12圃場/30圃場)、発病茎率は16.3%、平均発病度は8.0であった。本病は例年本県では発生が認められず、過去30年間では平成7年5月に播磨地域西部(上月町、現佐用町)でわずかに発生が認められたのみで、異例の多発生である。

イ 今後1か月の気象予報によると、降水量はほぼ平年並で、周期的な降雨が予想されていることから、今後の気温の上昇に伴い、本病は多い発生で推移すると予想される。

ウ 本病の詳細については、令和3年度病害虫発生予察注意報第1号（令和3年4月28日付）を参考にすること（HPに掲載）。

(3) 防除上の留意点

ア 病斑が上位葉に進展して多発した場合、稔実が悪くなり減収するので、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。

イ 風通しや日当たりの悪い場所、厚播きや窒素質肥料の多施用、追肥の遅れなどにより軟弱過繁茂したところでは発生が助長されるので注意する。

ウ 薬剤によっては赤かび病との同時防除が可能であるが、本病は下位葉から上位葉に向けて進展するため、散布量を使用基準内で多めに設定し、株元まで薬剤が届くように、丁寧に散布する。

エ 罹病株の残渣やこぼれムギは次作の伝染源となるため、前年に発生した圃場では特に発生に注意する。

オ 本県奨励品種の「ふくほのか」及び「せときらら」はうどんこ病に弱く（育成地の検定）、また「シロガネコムギ」は罹病性であるので、いずれの品種も発生していれば薬剤防除の必要がある。

カ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

4 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場(加西市)では、1.0頭/25茎(平年値0.5頭)と平年並の発生であった。その他、播磨地域の調査では、2.3頭/25茎(前年同期1.1頭)の発生がみられている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、本種にとって増殖に好適な条件が続くことから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

タマネギ

1 【細菌性病害】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の淡路地域の調査では、発生圃場率は31.2%（平年値30.8%）、発病株率は0.15%（同0.39%）と平年並の発生となった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、周期的な降雨が予想さ

れていることから、気温の上昇と降雨により本病の発生が助長され、発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 伝染源となる腐敗株を早期に抜き取り、圃場外で処分する。
- イ 排水不良は本病の発病を助長するので、明渠等により圃場排水対策を徹底する。
- ウ 強風雨や作業等による傷口から本病が感染して発病腐敗を起こすので、傷を起こしやすい気象条件や作業の程度によっては臨機的な薬剤防除を実施する。
- エ 収穫は、晴天時に鱗茎を圃場で十分に乾燥させてから実施する。その際、罹病株は選別・除去する。
- オ 早期収穫は貯蔵腐敗を助長するので適期収穫に努める。
- カ その他、地域の栽培ごよみに従って作業を実施すること。

2 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- ア 4月下旬の淡路地域の調査では、発生圃場率は3.6%（平年値 5.8%）、発病株率は0.11%（同 0.12%）と平年並の発生であった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、周期的な降雨が予想されていることから、気温の上昇と降雨により本病の発生が助長され、発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 圃場の発生状況を十分観察し、地域の防除暦やタマネギべと病対策マニュアル（タマネギべと病防除技術開発コンソーシアム発行）を活用して、薬剤防除を徹底すること。
- イ 薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行なうこと。
- ウ タマネギべと病の防除の徹底については、令和2年度病害虫発生予察防除情報第5号（令和3年3月4日付）を参考にすること（HPに掲載）。
- エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

3 【灰色腐敗病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の調査では発病は認められなかったが、関係機関による4月下旬の調査ではやや少ない発生を確認している。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高く、周期的な降雨が予想されていることから、本病は平年並の発生になると予想される。

4 【ネギアザミウマ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の場内圃場(加西市)における成・幼虫数は、42.3頭/株(平年値10.8頭)とやや多い発生であった。4月中旬の淡路地域の調査では、発生量は成・幼虫数1.3頭/株(前年同期2.7頭)であったが、発生圃場率は80.6%と前年と同等(85.7%)であり、広い範囲で発生が認められている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いとされており、好適な条件が続くことから、やや多い発生で推移すると考えられる。

ウ 本種はタマネギえそ条斑病の病原であるアイリス黄斑ウイルス(IYSV)を媒介するので、病徴の発現に注意して、適切な防除対策を実施すること(IYSVについては令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号、令和2年7月14日付で詳しく記載。HPに掲載中)。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤防除は地域の防除暦に従って実施して、圃場内の密度を下げるようにする。薬剤散布にあたって散布ムラがないよう丁寧に、かつ薬液が葉面に十分付着するように行う。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

春キャベツ

1 【黒腐病】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の調査では発病は確認されなかった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いとされており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

2 【菌核病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の播磨・淡路地域の調査では、発生圃場率41.7%、発病株率1.0%と平年並の発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されているが、降水量はほぼ平年並とされており、本病の発生は平年並で推移すると予想される。

3 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の調査では発生は確認されていないが、今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いとされており、気温の上昇に伴い、発生がみられるようになると考えられる。

4 【ヨトウガ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 加西市(農技センター内)と南あわじ市(淡路農技内)に設置しているフェロモントラップでは、4月上旬から成虫の誘殺がみられており、誘殺時期としては平年よりやや早い。誘殺数は4月中旬に一時的に減少したが、その後再び増加傾向にある。幼虫の発生はみられていないが、成虫の発生が分散していることから、次世代幼虫の発生時期も長期間に及ぶ可能性がある。

5 【コナガ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の淡路地域の調査では、幼虫の発生は確認されていないが、成虫は4月以降、加西市(農技センター内)と南あわじ市(淡路農技内)の予察灯で断続的に誘殺が見られている。フェロモントラップにおいても同様に加西市、南あわじ市とも4月から誘殺が認められ、例年と同程度の誘殺数であり、平年並の発生で推移している。

- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、季節的にも本種の発生に好適な条件になると考えられる。

6 【モンシロチョウ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 4月の調査では幼虫の発生は認められていないが、圃場周辺では成虫の飛翔が観察されており、今後幼虫の発生が予想される。

- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いとされており、本種の発生に好適な条件になると考えられる。

野菜共通

1 【ヨトウムシ類】(シロイチモジヨトウ、ヨトウガ)

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 南あわじ市(淡路農技内)に設置しているフェロモントラップでは、シロイチモジヨトウの成虫の誘殺が4月1半旬から認められている。ヨトウガについては前述(春キャベツ)のとおり、早い時期からの誘殺が認められている。

- イ 例年より早い時期から幼虫による加害が起こるおそれがあり、今後の発生に注

意が必要である。

その他

1 【果樹カメムシ類】

(1) 現況と今後の留意点

ア 朝来市(北部農技内)に設置しているフェロモントラップでは、4月2半旬及び5半旬に計4頭のチャバネアオカメムシの誘殺が認められている。初確認時期としては平年より早く、越冬成虫が付近に生息している状態にあると考えられる。今後気温の上昇に伴い、4月下旬～5月上旬に本格的な飛来が起きると考えられる。

イ 定期的に園内を見回り、飛来状況の把握に努め、袋かけ等の防除対策を実施して、幼果の被害を受けないよう注意が必要である。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)